

ドイツ語技能検定試験 3 級で求められている ドイツ語運用能力について

ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻 人見明宏

0. はじめに

2012 年に採択された本学の「平成 24 年度グローバル人材育成推進事業構想調書(特色型)」では、本学外国語学部ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻のドイツ語について、以下の目標レベルを学生の 70%が達成することを目指している。

専攻言語としてのドイツ語	2 年修了時にドイツ語技能検定試験 3 級または CEFR A2 卒業時にドイツ語技能検定試験 2 級～準 1 級または CEFR B2
--------------	---

また、実践的ドイツ語能力を習得し、ドイツ語技能検定試験(以下、独検)の 3 級合格を目指すという目的で、2015 年度後期から、ドイツ語圏専攻の専攻言語科目として「ドイツ語実践 A」(半期, 1 単位, 設置年次は 2 年次以上)が新規開講された。

本論文では、過去に実施された独検 3 級の試験問題を分析し、そこで求められている具体的なドイツ語運用能力について考察する。また、この考察結果を「ドイツ語実践 A」の授業目的の達成に役立てると共に、受講生のより効果的なドイツ語学習と自律学習能力養成のための取組についても提案する。

1. 独検 3 級の検定基準と試験構成

独検は、1・2・3・4 級の 4 つの受験級で構成されていたが、2008 年秋期の試験から 1・準 1・2・3・4・5 級の 6 つの受験級に変更された。3 級に関しては、レベルに変更はないが、本論文では、基本的に 2008 年秋期からの独検の試験問題を対象とする。

まず、独検の HP に挙げられている 3 級の検定基準は、以下のとおりである。

- ドイツ語の初級文法全般にわたる知識を前提に、簡単な会話や文章が理解できる。
- 基本的なドイツ語を理解し、ほとんどの身近な場面に対応できる。
簡単な内容のコラムや記事などの文章を読むことができる。
短い文章の内容を聞き、簡単な質問に答え、重要な語句や数字を書き取ることができる。
- 対象は、ドイツ語の授業を約 120 時間(90 分授業で 80 回)以上受講しているか、これと同じ程度の学習経験のある人。

(http://www.dokken.or.jp/outline/kijun_j.pdf)

次に、独検 3 級の試験構成であるが、これは筆記試験と聞き取り試験の 2 部構成となっている。筆記試験は、問 1 から問 5 における発音、文法、語彙・熟語の問題、問 6 から問 8 におけ

る短い文章や会話文の内容把握などの問題から構成されている。聞き取り試験は、3部構成となっており、短い文章や会話文の聞き取りと単語や数字の書き取り問題が出題されている。実施年により、構成、設問数、また出題形式が異なることもあるため、具体的な試験構成については、2014年秋期試験の例を2.1で挙げることにする。

2. 独検3級2008年秋期から2014年秋期試験の分析

以下では、まず2014年秋期試験の概要を挙げ、次に試験問題を分析し、独検3級で求められているドイツ語運用能力について考察する。

2.1. 2014年秋期試験概要

独検3級2014年秋期試験の試験時間、試験構成・内容、配点などは、以下のとおりである。

筆記試験(試験時間:60分):問1～問8,計99点

聞き取り試験(試験時間:約20分):第1部～第3部,計37点

	試験内容	配点
問1	発音やアクセントに関する問題	3点×4
問2	前置詞に関する問題	3点×4
問3	動詞や助動詞に関する問題	3点×4
問4	再帰代名詞, 関係代名詞, 形容詞の格変化に関する文法問題	3点×4
問5	語彙に関する問題	3点×4
問6	メール文を読んで, 空欄に適切な表現を補う, 同じ内容を表す文を選択する, 本文の内容と一致する文を選択する問題	3点×4
問7	空欄に入れるのに適切な表現を選択し, 会話を完成させる問題	3点×5
問8	身近なテーマを扱った文章の内容と一致する文を選択する問題	3点×4
第1部	放送された会話の内容に関する質問に対して, 適切な答えを選択する問題	4点×3
第2部	放送された文章の内容に関する質問に対して, 答えとして適切な絵を選択する問題	3点×3
第3部	放送された会話の内容に関する質問に, 単語や数字で答える問題	4点×4

なお、筆記試験と聞き取り試験の合計点136点を100点満点に換算した全体の平均点は64.63点、合格最低点は63.24点である(公益財団法人ドイツ語学文学振興会(2015)S.147)。

2.2. 試験問題の分析

以下では、独検3級筆記試験の問1から問8および聞き取り試験の第1部から第3部について、問題群ごとにその試験問題を分析する。その際、まず2014年秋期試験に関しては、実施された問題を挙げ、個々の設問について分析し、そこで求められているドイツ語運用能力を

考察する。次に、2008 年秋期から 2014 年春期に実施された試験問題については、実施された問題は挙げず、2014 年秋期試験も含めた分析結果から、独検 3 級で求められているドイツ語運用能力について考察する。なお、分析・考察の対象は、文法と熟語の問題を中心に行う。

2.2.1. 筆記試験

2.2.1.1. 問 1

問 1 は、発音やアクセントに関する問題であり、2014 年秋期試験は以下のとおりである。

1 次の (1)～(4) の条件にあてはまるものが各組に一つずつあります。それを下の 1～4 のうちから選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

(1) 下線部の発音が他と異なる。
1 Gebirge 2 Geld 3 Genie 4 Gesetz

(2) 下線部が短く発音される。
1 vielleicht 2 beliebt 3 interessiert 4 ziemlich

(3) 下線部にアクセント(強勢)がある。
1 Exemplar 2 Maschine 3 Generation 4 Heirat

(4) 問い A に対する答え B の下線部中で、通常最も強調して発音される。
A: Wann soll ich diese Tabletten nehmen? Vor dem Essen?
B: Nein. Nehmen Sie die Tabletten nach dem Essen!

1 die Tabletten 2 nach 3 dem 4 Essen

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2015) S.136)

ここでは、以下の点が問われている。

- (1) 選択肢の語のうち、Genie のみが外来語であること。
g は外来語では [ʒ] と発音されるものがあり、Genie はそれに該当すること。
- (2) ドイツ語の ie は長母音の [i:] と発音されるのが原則であるが、vielleicht の ie は例外的に短母音 [i] となること。
- (3) 外来語のアクセントに関して、Formular, Exemplar, Seminar など、-ar で終わる語は、最終音節にアクセントが置かれること。
- (4) 文アクセントは、通常、最も重要な情報を表す部分(焦点)に置かれること。
問題文では、薬を服用する時間について、vor dem Essen か nach dem Essen かが問題となっており、nach が焦点であること。

2008 年から 2014 年の問 1 は、通常 4 問出題され、母音・子音の発音、母音の長短、語の A

アクセントの位置, 文アクセントの位置が問われている。

母音・子音の発音に関しては, 主に, 子音の発音, 特に **ch** (外来語を含む), 語末・音節末の **-b, -d, -g**, 語頭・音節頭の **sp-, st-** の発音が問われている。

母音の長短に関しては, 主に, **ch** の前の母音や, 例外的に短母音 (**lebendig, vielleicht** など) または長母音 (**Papst** など) になる母音, 外来語における母音が問われている。

語のアクセントの位置に関しては, 主に, 本来のドイツ語では, 分離・非分離前綴りのついた語や, 非分離前綴りのついた語以外で例外的に第一音節にアクセントのない語 (**vielleicht** など) が問われている。外来語では, **-al, -ar, -at, -ei, -ell, -ent, -ier, -ieren, -ik, -ion, -isch, -ium, -or** など で終わる語および元の語と派生語でアクセントの位置が異なる語 (**Musik** と **Musiker** など) が問われている。

話し手が最も重要であると判断した要素は, 強調して発音され, 文アクセントが置かれる。したがって, 文アクセントに関しては, 文意を正確に把握し, 文脈からどの要素が最も重要であるかを判断できることが問われる。以下の例のように, 問い **A** に対して, 答え **B-1** または **B-2** のように, まずそれを打ち消して, 新たな情報を伝えるなどの形式で, どの要素が最も重要であるかを判断できることが問われている。

A: Entschuldigung, fährt der Zug hier nach Berlin?

B-1: Nein, der Zug nach Berlin ist leider schon abgefahren.

B-2: Nein, der nächste Zug fährt nach Berlin.

2.2.1.2. 問 2

問 2 は, 前置詞に関する問題であり, 2014 年秋期試験は以下のとおりである。

2	次の (1)~(4) の文で () の中に入れるのに最も適切なものを下の 1~4 のうちから選び, その番号を解答欄に記入しなさい。
(1)	Japan besteht () vielen Inseln. 1 aus 2 bei 3 von 4 zu
(2)	Ich denke immer () meine Heimat. 1 an 2 gegen 3 in 4 unter
(3)	Wir treffen uns () Mittwoch vor dem Kino. 1 am 2 beim 3 im 4 zum
(4)	Dieses Problem hat nichts () uns zu tun. 1 durch 2 mit 3 nach 4 über

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2015) S.136)

ここでは, 以下の点が問われている。

- (1) 動詞 *bestehen* が, 前置詞 *aus* と結びついて熟語をなすこと。
- (2) 動詞 *denken* が, 前置詞 *an* と結びついて熟語をなすこと。
- (3) 前置詞 *an* が, 「曜日・週末・朝夕」を表す名詞と結びついて「～に」を表すこと。
- (4) (*etwas / nichts*) *zu tun haben* が, 前置詞 *mit* と結びついて熟語をなすこと。

2008 年から 2014 年の問 2 は, 通常 4 問出題され, その多くは特定の前置詞と結びついて用いられる動詞や形容詞などの熟語が問われている。さらに特定の前置詞と共に用いられる動詞から派生した名詞も, 同じ前置詞と共に用いられることも問われている (*auf die Frage antworten > eine Antwort auf die Frage*)。また前置詞の用法に関する問題も出題されている。3 級では, 主に, 以下の前置詞の用法と熟語などの知識が問われている。

・前置詞の用法など

日時の <i>an</i> +3 格	用途・帰属の <i>für</i> +4 格
河畔・海辺などの <i>an</i> +3・4 格	理由・原因の <i>wegen</i> +2 格
場所の <i>bei</i> +3 格 (人)	非接触の上方を表す <i>über</i> +3・4 格
賛成の <i>für</i> +4 格	

・熟語など

<i>von j</i> ³ / <i>et</i> ³ <i>ab h</i> ängen	<i>sich</i> ⁴ <i>für j</i> ⁴ / <i>et</i> ⁴ <i>interessieren</i>
Angst vor <i>j</i> ³ / <i>et</i> ³ <i>haben</i>	<i>für et</i> ⁴ <i>kämpfen</i>
eine Antwort auf die Frage	<i>sich</i> ⁴ um <i>j</i> ⁴ / <i>et</i> ⁴ <i>kümmern</i>
<i>sich</i> ⁴ über <i>j</i> ⁴ / <i>et</i> ⁴ <i>ärgern</i>	Lust auf <i>et</i> ⁴ <i>haben</i>
auf <i>j</i> ⁴ / <i>et</i> ⁴ <i>auf p</i> assen	<i>et</i> ⁴ in Ordnung <i>bringen</i>
<i>j</i> ³ von <i>et</i> ³ <i>berichten</i>	zu <i>j</i> ³ / <i>et</i> ³ <i>passen</i>
mit <i>et</i> ³ <i>beschäftigt sein</i>	von <i>j</i> ³ / <i>et</i> ³ <i>ist die Rede</i>
aus <i>et</i> ³ <i>bestehen</i>	über <i>et</i> ⁴ <i>schreiben</i>
<i>j</i> ⁴ um <i>et</i> ⁴ <i>bitten</i>	an <i>et</i> ³ <i>sterben</i>
<i>j</i> ³ für <i>et</i> ⁴ <i>danken</i>	stolz auf <i>j</i> ⁴ / <i>et</i> ⁴ <i>sein</i>
an <i>j</i> ⁴ / <i>et</i> ⁴ <i>denken</i>	an <i>et</i> ³ <i>teil nehmen</i>
<i>sich</i> ⁴ um <i>et</i> ⁴ <i>drehen</i>	über <i>et</i> ⁴ <i>traurig sein</i>
<i>sich</i> ⁴ an <i>j</i> ⁴ / <i>et</i> ⁴ <i>erinnern</i>	mit <i>j</i> ³ / <i>et</i> ³ <i>nichts zu tun haben</i>
auf jeden Fall	<i>j</i> ³ zur Verfügung <i>stehen</i>
mit <i>et</i> ³ <i>fertig sein</i>	im Vergleich zu <i>et</i> ³
<i>j</i> ⁴ nach <i>et</i> ³ <i>fragen</i>	mit <i>j</i> ³ <i>verheiratet sein</i>
<i>sich</i> ⁴ auf <i>et</i> ⁴ <i>freuen</i>	auf <i>et</i> ⁴ <i>verzichten</i>
<i>sich</i> ⁴ über <i>et</i> ⁴ <i>freuen</i>	auf <i>j</i> ⁴ / <i>et</i> ⁴ <i>warten</i>
im Gegenteil	was für (ein-)
zu <i>j</i> ³ / <i>et</i> ³ <i>gehören</i>	in der Zeitung <i>stehen</i>
glücklich über <i>et</i> ⁴ <i>sein</i>	mit <i>j</i> ³ / <i>et</i> ³ <i>zufrieden sein</i>
aus ... Gründen	

2.2.1.3. 問 3

問 3 は、動詞や助動詞に関する問題であり、2014 年秋期試験は以下のとおりである。

3 次の (1)～(4) の文で () の中に入れるのに最も適切なものを下の 1～4 のうちから選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

(1) Die Bäckerei dort () auch sonntags bis 12.00 Uhr geöffnet.
1 ist 2 wird 3 wurde 4 sind

(2) Er singt, als ob er Opernsänger ().
1 hatte 2 hätte 3 wäre 4 wurde

(3) Sie ist ins Bett gegangen, ohne das Fenster ().
1 zumachen 2 zumacht 3 zuzumachen 4 zugemacht

(4) Diese Übung muss noch einmal () werden.
1 wiederholt 2 wiederholte 3 wiederholen 4 wiederholt

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2015) S.137)

ここでは、以下の点が問われている。

- (1) 空欄に補うのが、動詞 öffnen の過去分詞 geöffnet と結びつく助動詞であること。
öffnen には、他動詞、自動詞および再帰動詞の用法がある。しかし、問題文に再帰代名詞がないため、再帰動詞は除外される。また自動詞 öffnen は、完了の助動詞として haben を支配するが、選択肢に haben がいないため、これも除外される。したがって、問題文の geöffnet が、他動詞 öffnen の過去分詞であること。
他動詞 öffnen の場合は、通常主語に人が、4 格目的語にドアや店が現れる。しかし、問題文では人の主語が現れておらず、他動詞の 4 格目的語 die Bäckerei が主語になっている。能動文における他動詞の 4 格目的語は、受動文では主語になることから、問題文が受動文であり、空欄に補うのが受動の助動詞であること。
受動態には動作受動(過去分詞 + werden)と状態受動(過去分詞 + sein)の二種類があるが、bis 12.00 Uhr という表現があるため、動作受動は不適切であり、状態受動が適切であること。
主語の die Bäckerei が単数であるため、状態受動の助動詞 sein の 3 人称単数(現在)が正解であること。
- (2) als ob が、主に接続法第 II 式と共に用いられること。
選択肢のうち接続法第 II 式は、hätte と wäre であること。
空欄に hätte を補うと、er が主語であり、Opernsänger は無冠詞であるため複数 4 格であると考えられるが、その場合、文意が適切ではないこと。
空欄に wäre を補うと、Opernsänger は主語の述語内容語であり、文意も適切であり、

wäre が正解であること。

- (3) 選択肢が、分離動詞 **zumachen** の不定詞または定動詞(1 人称・3 人称複数現在)、定動詞(3 人称単数・2 人称複数現在)、**zu** 不定詞、過去分詞であること。

ohne は 4 格支配の前置詞であるが、**ohne das Fenster** とすると、文法的には **zu** 不定詞および過去分詞を補うことは可能であるが、文意が適切ではないこと。

ohne は **zu** 不定詞と共に用いられるが、その場合、文意も適切であり、**zumachen** が正解であること。

- (4) **wieder** は分離・非分離前綴りで、動詞 **wiederholen** には、分離動詞と非分離動詞とがあること。

分離動詞 **wieder|holen** は「～を取り戻してくる」を、非分離動詞 **wiederholen** は「～を繰り返す」を意味すること。

分離動詞 **wieder|holen** も非分離動詞も **wiederholen** も他動詞であるが、問題文には 4 格目的語が現れていないため、**diese Übung** が主語であり、**werden** が未来の助動詞ではなく、受動の助動詞であること。

受動の助動詞 **werden** は過去分詞と結びつく。選択肢のうち、過去分詞は **wiedergeholt** (分離動詞)と **wiederholt** (非分離動詞)であるが、分離動詞 **wieder|holen** では文意が適切ではなく、非分離動詞 **wiederholen** では文意が適切であるため、**wiederholt** が正解であること。

2008 年から 2014 年の問 3 は、通常 4 問出題され、命令形、**zu** 不定詞、過去形、過去分詞、受動態、接続法などが問われているが、出題形式が以下の 3 つのタイプに大きく分類される。

タイプ A: 動詞単独の形を問うもの

タイプ B: (助) 動詞などと結びつく動詞の形を問うもの

タイプ C: 不定詞や過去分詞などと結びつく(助) 動詞を問うもの

タイプ A では、以下の形式で出題されている。

Ich habe meine Brille vergessen. Lukas, () mal bitte vor!

1 lesen

2 lies

3 liest

4 lest

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2012) S.111)

この問題では、問題文が **du** に対する命令文であり、動詞 **lesen** の **du** に対する命令形が問われている。このタイプの問題では、ほかに動詞の過去形も問われている。

まず、命令形に関しては、以下の点が問われている。

- ・問題文が命令文であり、主語が 2 人称(親称)の単数 **du**、複数 **ihr**、2 人称(敬称)の **Sie** のいずれかであるかを判断できること。
- ・**sprechen** 型の動詞と **sehen** 型の動詞の **du** に対する命令形をつくれること。
- ・**sein** の **du** および **Sie** に対する命令形をつくれること。

次に、過去形に関しては、以下の点が問われている。

- ・問題文にある *gestern* などの表現や, *als* および *nachdem* で導入された副文などから, 問題文の定動詞の時称として, 過去時称が適切であると判断できること。
 - ・主語の人称と単数・複数を判断できること。
 - ・基本的な不規則動詞 (*geben, gehen* など) や語法の助動詞の過去形をつくれること。
- タイプ B に関しては, 以下の形式で出題されている。

Die Katze ist vor zwei Wochen plötzlich zu uns ().

- 1 kommen 2 kam 3 gekommen 4 kommt

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2014) S.135)

この問題では, 助動詞 *sein* と結びつく動詞の形が問われている。*kommen* は, 完了の助動詞に *sein* を要求する *sein* 支配の自動詞であるため, 過去分詞 (*gekommen*) が適切であると判断できることが問われている。このように, タイプ B の問題では, (助)動詞と結びつく動詞の形と機能(完了, 受動態など)が問われている。

タイプ C に関しては, 以下の形式で出題されている。

Die Täter () gestern endlich von der Polizei festgenommen.

- 1 sind 2 hatten 3 wurden 4 wären

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2014) S.135)

この問題では, *fest|nehmen* の過去分詞 *festgenommen* と結びつく助動詞が問われている。*fest|nehmen* は, 選択肢の *sind* と結びつく状態受動の現在, *hatten* と結びつく能動態の過去完了, *wurden* と結びつく動作受動の過去, *wären* と結びつく状態受動の接続法第 II 式現在を表すが, 主語が *die Täter* であることと *von der Polizei* という表現から問題文が受動態であることがわかる。また *gestern* と結びつく時称, *endlich, von der Polizei* (状態受動では一般に動作主は現れない) という表現から状態受動の現在 (*sind, wäre*) は不適切であることがわかり, 動作受動の過去 (*wurden*) が適切であると判断できることが問われている。このように, 特にこのタイプでは, 問題文の態・時称・文意などにも注意する必要がある。

タイプ B および C に共通して求められているのは, 以下の点である。

- ・次の動詞と(助)動詞の結びつきとその機能を理解していること。

動詞と(助)動詞の結びつき	機能(時称, 態, 意味など)
不定詞 + <i>werden</i>	未来時称
不定詞 + 語法の助動詞	
不定詞 + <i>lassen</i>	使役
<i>sich</i> ⁴ + (他動詞の) 不定詞 + <i>lassen</i>	受動の可能
4 格目的語 + 不定詞 + 知覚動詞 (<i>hören, sehen</i> など)	知覚動詞構文
<i>zu</i> 不定詞 + <i>haben</i>	必要, 「…するものがある」
<i>zu</i> 不定詞 + <i>sein</i>	受動の可能, 受動の必要
<i>nicht</i> などの否定詞 + <i>zu</i> 不定詞 + <i>brauchen</i>	「…する必要はない」

zu 不定詞 + vor haben	「…するつもりである」
(他動詞, sein 支配の自動詞以外の自動詞, 話法の助動詞の) 過去分詞 + haben	完了時称
(sein 支配の自動詞の) 過去分詞 + sein	完了時称
(主に他動詞の) 過去分詞 + sein	状態受動
(主に他動詞の) 過去分詞 + werden	動作受動
(主に他動詞の) 過去分詞 + worden + sein	動作受動の完了時称

- ・話法の助動詞には過去分詞が 2 つあり, ほかに本動詞がある場合は, その過去分詞は不定詞と同形であること。
- ・受動の助動詞 werden の過去分詞は, ge- のつかない worden であること。
- ・分離動詞と非分離動詞の過去分詞をつくれること。また, 同一形態の動詞で分離動詞と非分離動詞の両方がある動詞 (übersetzen, wiederholen など) の意味を理解していること。
- ・haben, sein, werden および話法の助動詞の接続法第 II 式をつくれること。
- ・問題文の時称を判断できること。
- ・um, ohne や後続する zu 不定詞句を先取りする es などから, zu 不定詞が必要であると判断できること。
- ・問題文の過去分詞が他動詞であるにもかかわらず, 文中に 4 格目的語がないこと, 動作主を表す von + 3 格があることなどから, 問題文が受動文であると判断できること。
- ・問題文が受動文である場合, 時点やある一定の時間・期間を表す表現などから, 動作受動と状態受動を区別できること。
- ・問題文が, 前提部を表す wenn 副文や als ob などから接続法第 II 式を用いた非現実話法であると判断できること。
- ・問題文が, 婉曲・丁寧な表現としての外交的接続法の文であると判断できること。
- ・問題文が, ohne による前置詞句, an ... Stelle, fast や beinahe などの表現から, 非現実話法の結論部の独立用法であると判断できること。

2.2.1.4. 問 4

問 4 は, 文法に関する問題であり, 2014 年秋期試験は以下のとおりである。

4	<p>次の (1)~(4) の文で () の中に入れるのに最も適切なものを下の 1~4 のうちから選び, その番号を解答欄に記入しなさい。</p> <p>(1) An jene Zeiten kann ich () noch gut erinnern. 1 es 2 mich 3 mir 4 sich</p> <p>(2) Du kannst alles machen, () du willst! 1 dass 2 was 3 wer 4 wohin</p>
----------	---

(3) Sie zeigt einem () den Weg zum Tokyo Skytree.			
1 Deutsch	2 Deutsche	3 Deutschen	4 Deutscher
(4) Wir laden einen Musiker zum Abendessen ein, () wir in Wien kennen gelernt haben.			
1 den	2 denen	3 dessen	4 die

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2015) S.137)

ここでは、以下の点が問われている。

- (1) 動詞 *erinnern* が、前置詞 *an* および 4 格の再帰代名詞と結びついて熟語をなすこと。
問題文の主語が *ich* であるため、その再帰代名詞の 4 格は人称代名詞と同形の *mich* であること。
- (2) 話法の助動詞 *wollen* は、本動詞を伴わない場合、4 格目的語を支配できること。
先行する主文に *alles* があり、これを先行詞とすることができるのが、不定関係代名詞 *was* であること。
- (3) 動詞 *zeigen* が、*j³ den Weg zeigen* で「～に道を教える」を意味すること。
選択肢が、名詞化された形容詞であること。
問題文の不定冠詞 *einem* が男性単数 3 格を表しており、形容詞の混合変化男性単数 3 格の格語尾が *-en* であること。
- (4) 問題文の後続文が定動詞後置の副文であること。
kennen lernen は 4 格目的語を支配するが、問題文にはこれがないため、*einen Musiker* を先行詞とする定関係代名詞が必要であること。
定関係代名詞 *der* は、性・数は先行詞と一致し、格は関係文内の役割によって決まる。
問題文では、先行詞 *einen Musiker* が男性・単数であり、*kennen lernen* が 4 格目的語を支配することから、定関係代名詞男性単数 4 格の *den* が必要であること。

2008 年から 2014 年の問 4 は、通常 4 問出題され、再帰代名詞、関係代名詞、不定代名詞、形容詞の格変化、形容詞の比較表現、接続詞・接続詞的副詞などが問われている。

再帰代名詞に関しては、再帰動詞などと共に用いられた再帰代名詞、特に (3 人称の *sich* ではなく) 1 人称単数 *mir, mich*, 2 人称単数 *dir, dich* などが問われている。再帰動詞が支配する再帰代名詞の格を正確に覚えておく必要がある。主に、以下の再帰動詞と共に用いられる再帰代名詞が問われている。

<i>sich⁴ erkälten</i>	<i>sich⁴ treffen</i> (相互代名詞的用法)
<i>sich⁴ ... fühlen</i>	<i>sich³ et⁴ vorstellen</i>
<i>sich³ et⁴ kaufen</i>	<i>sich³ et⁴ waschen</i> (所有の 3 格)
<i>sich⁴ setzen</i>	

形容詞の比較表現に関しては、問 4 のほかに、問 5 でも出題されている。主に、以下の表現が問われている。

・原級を用いた表現

doppelt so 原級 wie ～

・比較級を用いた表現

比較級 als ～ (alsが副文を導入しているもの)

immer+比較級

viel+比較級

je+比較級^A ... (副文), desto / umso [um so]+比較級^B ... (主文)

接続詞, 接続詞的副詞に関しては, 問題文の定動詞の位置から, 補うべき語が並列接続詞, 従属接続詞, 接続詞的副詞のいずれかであることが判断できること, さらに問題文の文意から, 意味的に適切な語を選択できることが問われている。主に, 並列接続詞denn, 従属接続詞als, ob, obwohl, weil, wenn, 接続詞的副詞deshalbが出題されている。

定関係代名詞 der に関しては, これは, その性と数は先行詞と一致し, 格は関係文内の役割によって決まるため, 先行詞の性・数, 関係文内の役割が判断できること, 定関係代名詞 der の格変化, 特に 2 格形と複数 3 格形がわかることが問われている。不定関係代名詞 was に関しては, これが, alles, nichts および形容詞の中性名詞化 (das Beste など) を先行詞とすることができることを理解しているかが問われている。

2.2.1.5. 問 5

問 5 は, 語彙力を問う問題であり, 2014 年秋期試験は以下のとおりである。

5 次の (1)～(4) の文で () の中に入れるのに最も適切なものを下の 1～4 のうちから選び, その番号を解答欄に記入しなさい。
(1) () gehört das Auto in unserer Garage, Papa? 1 Wer 2 Wessen 3 Wem 4 Wen
(2) Darf ich eine Frage ()? 1 geben 2 legen 3 sagen 4 stellen
(3) Mein Chef ist () von allen Fehlern. — Wirklich? So perfekt ist er? 1 arm 2 frei 3 reich 4 verwandt
(4) Meine Schwester ist schon lange in deinen Bruder (). 1 begeistert 2 stolz 3 verliebt 4 zufrieden

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2015) S.138)

ここでは, 以下の点が問われている。

- (1) 問題文の動詞 gehören が人の 3 格目的語を支配すること。
疑問代名詞 wer の 3 格が wem であること。

- (2) 問題文の名詞 Frage が動詞 stellen と結びつき, eine Frage stellen で「質問をする」を意味すること。
- (3) 問題文の前置詞 von が形容詞 frei と結びつき, frei von *et*³ sein で「～を免れている, ～がない」を意味すること。
- (4) 問題文の前置詞 in が形容詞 verliebt と結びつき, in *j*⁴ verliebt sein で「～に夢中になっている」を意味すること。

2008年から2014年の問5は、通常4問出題され、名詞、形容詞、副詞、動詞などの語彙力が問われている。主に、以下のような表現・熟語を覚えている必要がある。

*j*⁴ vom [am] Bahnhof ab|holen ～を駅へ迎えに行く
 einen Termin aus|machen 日取りを取り決める, (診察などの) 予約をする
 einen Termin beim Arzt haben 医者に診察の予約をしてある
*j*³ [mit *j*³/ auf *j*⁴] böse sein ～に腹を立てている
*j*⁴ nach Haus(e) bringen ～を家に送り届ける
*sich*⁴ (bei *j*³ für *et*⁴) entschuldigen (～に～について) わびる
*j*³ fehlen ～に欠けている; ～の体の具合が悪い
*et*⁴ ... finden ～を・・・と思う, みなす
 frei von *et*³ sein ～を免れている, ～がない
 Ich bin hier fremd. (道を聞かれたときに) 私はここは不案内です。
*j*³ gefallen ～の気に入る
 Wie gefällt Ihnen die Stadt? この町は気に入りましたか?
*j*³ gehören ～のものである
 das Gefühl haben, dass [als ob]のような[・・・であるかのような]気がする
 wenig Erfahrung haben 経験不足である
 Interesse an *et*³ haben ～に関心がある
*j*⁴/*et*⁴ für ... halten ～を・・・とみなす, 思う
 einen Vortrag halten 講演をする
 viel / nichts kosten 値段が高い, ただである
 Der Preis ist hoch. その値段は高い。
 Das ist teuer. それは(値段が)高い。
 (von *j*³) Abschied nehmen (～に) 別れを告げる
 Platz nehmen 着席する
 nach *et*³ riechen ～のおいがする
 zu spät kommen 遅刻する
 statt|finden (催し物などが) 行われる
*j*³ (gut) stehen ～に(よく) 似合っている
 (*j*³) eine Frage stellen (～に) 質問をする
 den Zug verpassen 列車に乗り遅れる
 in *j*⁴/*et*⁴ verliebt sein ～に夢中になっている
 zu|nehmen 増える, (人が) 太る

2.2.1.6. 問 6

問 6 は、メール文や手紙文を読んで問いに答える問題であり、2014 年秋期試験は以下のとおりである。

6

以下の文章は、職業訓練 (Ausbildung) を受けようとしている Rösler さんがレストラン経営者の Maier さんに送ったメールです。このメールを読んで、(1)～(3) の問いに答えなさい。

Betreff: Bewerbung für die Ausbildungsstelle zum Koch

Sehr geehrte Frau Maier,

auf der Internetseite der Bundesagentur für Arbeit* habe ich gelesen, dass Ihr Restaurant zum 01. August 2014 eine Ausbildungsstelle zum Koch anbietet. Um diesen Ausbildungsplatz möchte ich mich hiermit bei Ihnen bewerben.

Seit langer Zeit habe ich großes Interesse an dem Beruf des Kochs. Kochen ist meine große (A), weil mir die kreative Zubereitung von Speisen schon seit Jahren sehr viel Freude bereitet. Da ich in meiner Freizeit gerne koche und verschiedene Gerichte ausprobieren, (B) sehe ich in diesem Beruf meine Zukunft. In Ihrem Restaurant sehe ich die Chance auf eine sehr gute Ausbildung, deshalb möchte ich mich bei Ihnen zum Koch ausbilden lassen.

Über eine Einladung zu einem Vorstellungsgespräch* würde ich mich sehr freuen.

Mit freundlichen Grüßen

Max Rösler

* Bundesagentur für Arbeit: ドイツ職業安定所・紹介所

* Vorstellungsgespräch: 面接

(1) 空欄 (A) に入れるのに、最もふさわしい語を次の 1～4 のうちから選び、その番号を回答欄に記入しなさい。

1 Schwester 2 Angst 3 Freundschaft 4 Leidenschaft

(2) 下線部 (B) と内容的に最も近いものを次の 1～3 のうちから選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 Herr Rösler möchte Frau Maier treffen.
- 2 Herr Rösler möchte später Koch werden.
- 3 Herr Rösler möchte Frau Maier zum Essen einladen.

(3) 本文の内容にふさわしい文を、下の 1～5 のうちから二つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。ただし、番号の順序は問いません。

- 1 Herr Rösler und Frau Maier kennen sich seit langem sehr gut.
- 2 Herr Rösler hat auf einer Internetseite eine Ausbildungsstelle gefunden.
- 3 Frau Maier arbeitet bei der Bundesagentur für Arbeit.
- 4 Herr Rösler kocht sehr gerne.
- 5 Dieser Brief handelt von Herrn Röslers Kochrezepten.

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2015) S.138 f.)

ここでは、以下の点が問われている。

- (1) 本文の内容、特に空欄のある文の先行文 *Seit langer Zeit habe ich großes Interesse an dem Beruf des Kochs.* から、メールの差出人が料理に非常に強い関心を抱いていることを読み取れること。
選択肢の *Leidenschaft* の意味がわかり、*Kochen ist meine große Leidenschaft, ...* が適切であると判断できること。
- (2) 下線部にある *Beruf* と *Zukunft* の意味がわかり、選択肢にあるこれらと関連する語句 (*später, Koch werden*) から、下線部の表している内容と類似の文を判断できること。
- (3) 本文の内容を理解し、それと一致するドイツ語の文を選択できること。

2008 年から 2014 年に出題されたメール文や手紙文の内容は、主に、職業訓練・企業研修、ドイツ留学、招待状、チケットや宿泊の申し込み、旅行先からのメール・手紙、種々の依頼・照会やその返答などである。これらの文章を読み、その内容から本文中に適切な語句を補うこと、本文中の表現と同じ内容を表すものを選択すること、および本文の内容と一致するドイツ語文を選択することができるかが問われている。

2.2.1.7. 問 7

問 7 は、空欄に入れるのに適切な表現を選択して会話を完成させる問題であり、2014 年秋期試験は以下のとおりである。

7 次の会話が完成するように、空欄 (a)～(e) の中に入れるのに最も適切なものを、下の 1～8 のうちから選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

(In der Kneipe)

Nobuo: Hallo, Michael!

Michael: Hallo, Nobu! Herzlichen Glückwunsch! Ich habe gehört, dass dein Sohn Ken die Aufnahmeprüfung bestanden hat.

Nobuo: Danke. (a)

Michael: Deine Frau hat uns eine E-Mail geschrieben. (b)

Nobuo: Jura. (c)
 Michael: Ich dachte, er wird Kunstgeschichte studieren und Museumsdirektor werden wie du.
 Nobuo: Na, die meisten Kinder haben ihren eigenen Willen. Er hat immer seine Großmutter bewundert. (d) Sie war immer gerecht und hatte nie Vorurteile. (e) Er möchte etwas für die Gerechtigkeit in der Gesellschaft tun.
 Michael: Das ist ja toll! Also stoßen wir auf seinen Erfolg beim Studium an!
 Nobuo: Danke! Prost!

- 1 Aber woher kommt er denn?
- 2 Aber woher weißt du das?
- 3 Das hat auf ihn einen großen Einfluss ausgeübt.
- 4 Früher wollte er Arzt werden, aber jetzt will er Richter werden.
- 5 Sie komponierte als Musikerin viel.
- 6 Sie war als Richterin tätig.
- 7 Später will er Kunsthistoriker werden.
- 8 Und was studiert er denn?

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2015) S.140)

ここでは、以下の点が問われている。

- (a) 前後の文脈 (Ich habe gehört, dass dein Sohn Ken die Aufnahmeprüfung bestanden hat.および Deine Frau hat uns eine E-Mail geschrieben.) から、情報源を質問している Aber woher weißt du das? が適切であると判断できること。
- (b) 後続する Jura から、大学の専攻分野を質問している Und was studiert er denn? が適切であると判断できること。
- (c) 後続する Ich dachte, er wird Kunstgeschichte studieren und Museumsdirektor werden wie du. から Ken の将来の職業選択が話題になっていること、および先行する Jura と関連する職業として Richter が適切であることから、Früher wollte er Arzt werden, aber jetzt will er Richter werden. を選択できること。
- (d) 先行文で話題が Großmutter になり、後続する文でも依然として話題が同じであり、後続する文の gerecht, nie Vorurteile から、Sie war als Richterin tätig. が適切であると判断できること。
- (e) 先行文と後続文で話題が Großmutter から Ken に移っており、その前後の文脈から Das hat auf ihn einen großen Einfluss ausgeübt. が適切であると判断できること。

2008年から2014年に出题された会話文は、友人同士の日常会話、家庭内の日常会話、学校での会話、医者と患者のやり取り、客と店員のやり取り、道案内、乗客と車掌のやり取りなど、種々様々である。この問題では、当該文の前後の文脈から適切な表現を判断できること、質問

に対する適切な返答または返答に対する適切な質問を判断できるかが問われている。

2.2.1.8. 問 8

問 8 は、身近なテーマを扱った一定量のまとまった文章の読解力を問う問題であり、2014 年秋期試験は以下のとおりである。

8 次の文章を読んで、その内容に合うものを下の 1～8 のうちから四つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。ただし、番号の順序は問いません。

Der WWF machte mit einer deutschlandweiten Aktion Werbung für Naturschutz und Artenvielfalt*. Die Naturschutzgesellschaft WWF startete dieses Jahr eine Tour mit 1600 Pandafiguren durch einen großen Teil Deutschlands. Gestartet hat man in Berlin vor dem Hauptbahnhof. Die Reise ging über Köln, München und Stuttgart, bis hin nach Hamburg. Der WWF wollte auch die Leute, die sich nicht so viel für Naturschutz und Artenvielfalt interessieren, darauf aufmerksam machen, dass es weltweit nur noch 1600 Pandas gibt.

Der WWF hat in vielen Städten an großen Plätzen 1600 kleine Pandafiguren aus Pappe* aufgestellt. Das sieht sehr wenig aus und ist auch wenig. Neben den Pandabären war ein Stand aufgebaut, um den Personen, die sich die Figuren angeschaut haben, zu erklären, worum es dabei geht. Damit die ganzen Bären nicht gestohlen wurden, gab es ein Schild, worauf stand, dass man die Pandas bitte nicht mitnehmen solle. Der WWF hat den Leuten vertraut, und das hat auch ganz gut geklappt, so dass nur ein paar einzelne der Pandas fehlten.

* Artenvielfalt: 種の多様性

* Pappe: 厚紙

- 1 WWF(世界自然保護基金)は、世界各地で募金活動を展開している。
- 2 WWF のキャンペーンでは、本物のパンダがドイツの各都市を回っている。
- 3 現在、世界中で、たった 1600 頭のパンダしか生息していない。
- 4 WWF は、自然保護に関心の無い人にも、パンダなど希少種について関心を持ってもらうよう呼びかけている。
- 5 1600 個の厚紙で作ったパンダを実際に並べてみると、かなり少なく見える。
- 6 会場にはスタンドが設けられ、そこでパンダを眺めて楽しむこともできる。
- 7 会場には、厚紙で作ったパンダを持って帰らないよう注意書きがある。
- 8 厚紙で作ったパンダの多くが、イベント後に盗まれていた。

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2015) S.141)

ここでは、以下の点が問われている。

・選択肢 1: deutschlandweit および Werbung という表現から、本文の内容と一致していないこ

と。

- ・選択肢 2: Pandafiguren という表現から、本文の内容と一致していないこと。
- ・選択肢 3: dass es weltweit nur noch 1600 Pandas gibt から、本文の内容と一致していること。
- ・選択肢 4: Der WWF wollte auch die Leute, die sich nicht so viel für Naturschutz und Artenvielfalt interessieren, darauf aufmerksam machen から、本文の内容と一致していること。
- ・選択肢 5: 1600 kleine Pandafiguren aus Pappe aufgestellt. Das sieht sehr wenig aus から、本文の内容と一致していること。
- ・選択肢 6: ein Stand aufgebaut, um den Personen [...] zu erklären から、本文の内容と一致していないこと。
- ・選択肢 7: gab es ein Schild, worauf stand, dass man die Pandas bitte nicht mitnehmen sollte から、本文の内容と一致していること。
- ・選択肢 8: so dass nur ein paar einzelne der Pandas fehlten から、本文の内容と一致していること。

2008 年から 2014 年の間 8 は、ドイツ語の文章の内容と一致する日本語の文を選択する問題である。2009 年春期試験までは、文章の内容から本文中に適切な文を補う問題や適切なタイトルを選択する問題もあったが、2009 年秋期からは、内容一致の問題のみとなっている。問題文は、自然保護、環境問題、学校教育、食生活、健康問題、行事(オクトーバーフェスト、オリンピック、復活祭)などをテーマとした内容である。この問題では、特に単語や熟語などの語彙数が十分であるかが問われている。また、全文否定や部分否定などを正確に理解することも重要である。

2.2.2. 聞き取り試験

2.2.2.1. 第 1 部

第 1 部は、短い会話文を聞いて質問に答える問題であり、2014 年秋期試験は以下のとおりである。

第1部 Erster Teil

1. 第 1 部は、問題 (1) から (3) まであります。
 2. ドイツ語の短い会話を 2 回放送します。
 3. 設問の答えとして最も適切なものを選択肢 1~4 の中から一つ選び、その番号を解答用紙の所定の欄に記入してください。
 4. メモは自由にとってもかまいません。
- (1) Die Wohnung der Frau ist...
- 1 90 Quadratmeter groß und hat keinen Balkon.
 - 2 80 Quadratmeter groß und hat keinen Balkon.

- 3 90 Quadratmeter groß und kostet 500 Euro Miete.
4 80 Quadratmeter groß und kostet 600 Euro Miete.
- (2) Wo ist das Kino?
- 1 In der Beethovenstraße.
2 Links vor dem Kaufhaus.
3 Zwischen dem Kaufhaus und der Apotheke.
4 Hinter der Apotheke.
- (3) Was hat Markus?
- 1 Grippe und Husten.
2 Fieber und Kopfschmerzen.
3 Eine Erkältung und Fieber.
4 Schnupfen, Kopfschmerzen und Husten.

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2015) S.144)

放送 (1)

- A: Wie ist denn deine neue Wohnung?
B: Toll! Sie ist 80 Quadratmeter groß und hat einen Balkon. Sie kostet nur 500 Euro Miete.
A: Das ist wirklich billig. Meine Wohnung hat keinen Balkon. Aber sie ist 90 Quadratmeter groß.
B: Und wie hoch ist die Miete?
A: Ich muss jeden Monat 600 Euro bezahlen.

放送 (2)

- A: Entschuldigung, wo ist das Kino?
B: Das Kino? Das ist in der Schillerstraße.
A: Und wie komme ich zum Kino?
B: Gehen Sie die Beethovenstraße geradeaus und dann links in die Schillerstraße. Das Kino ist zwischen dem Kaufhaus und der Apotheke.
A: Vielen Dank!

放送 (3)

- A: Geht es dir nicht gut, Markus?
B: Ich habe Schnupfen und Kopfschmerzen.
A: Oh! Hast du auch Fieber? Vielleicht hast du Grippe.
B: Nein. Ich habe kein Fieber, aber ein bisschen Husten.
A: Dann hast du wohl eine Erkältung.

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2015) S.156 ff.)

ここでは、以下の点が問われている。

- (1) 放送されたドイツ語から、女性のアパートについて、keinen Balkon, 90 Quadratmeter groß, 600 Euro を聞き取ることができること。
- (2) 放送されたドイツ語の Das Kino ist zwischen dem Kaufhaus und der Apotheke. を聞き取ることができること。
- (3) 放送されたドイツ語から、Schnupfen und Kopfschmerzen, kein Fieber, aber ein bisschen Husten を聞き取ることができること。

聞き取り試験の第1部は、2014年秋期から出題形式が変更された。2008年から2014年春期までは、4つの短い会話を聞き、その中から最も自然な内容の会話を選択する問題である。会話は、Aの質問、Bの返答、Aの反応からなり、Aの発話部分はすべて同じで、Bの発話部分のみが異なっている。これに対し、2014年秋期からは、放送された会話を聞き、質問に対する最も適切な答えを選択するという出題形式に変更された。数字や基本的な単語を聞き取れること、また肯定・否定などを理解できることが問われている。

第1部に関しては、公開されている独検の試験問題が2014年実施のものまでだが、今後も新しい形式で出題されると思われる。今後の出題形式と内容を確認し、そこで求められているドイツ語運用能力を詳しく調べる必要がある。

2.2.2.2. 第2部

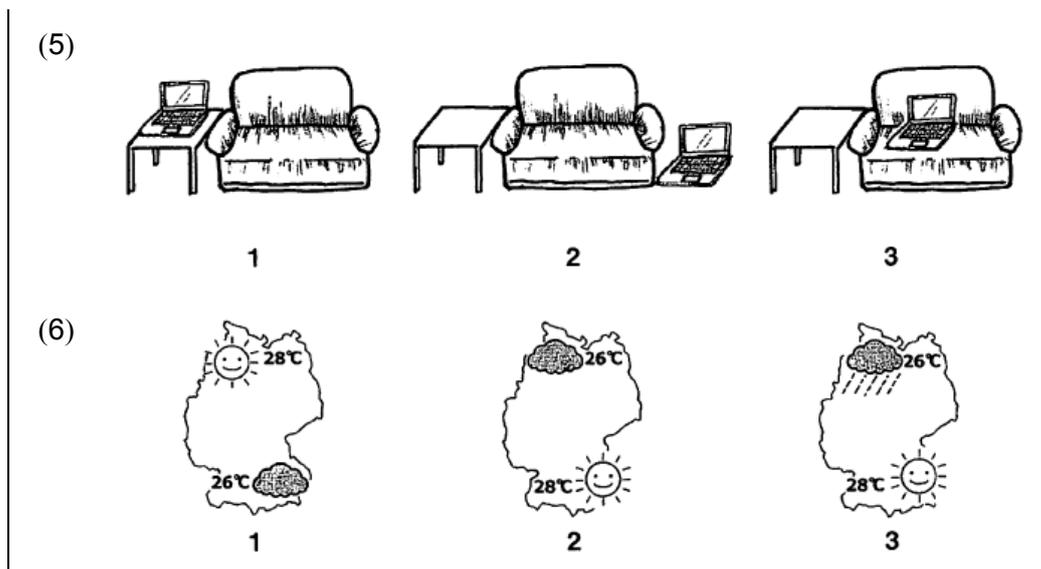
第2部は、放送されたドイツ語の文章・会話文を聞き、放送されたドイツ語の質問に対する答えとして適切な絵を選択する問題であり、2014年秋期試験は以下のとおりである。

第2部 Zweiter Teil

1. 第2部は、問題(4)から(6)まであります。
2. まずドイツ語の文章を放送します。
3. 次に、内容についての質問を読みます。間隔を置いてもう一度放送します。
4. 質問に対する答えとして最も適した絵をそれぞれ1~2のうちから選び、その番号を解答用紙の所定の欄に記入してください。
5. 以下、同じ要領で問題(6)まで順次進みます。
6. 最後に、問題(4)から(6)までの文章と質問をもう一度通して放送します。
7. メモは自由にとつてかまいません。

(4)





(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2015) S.144 f.)

放送 (4)

Guten Tag, Herr Müller. Wir möchten Sie heute über Ihre Reise informieren. Sie fahren am Montag mit dem Zug zum Flughafen Frankfurt. Dann fliegen Sie mit dem Flugzeug nach Madrid und fahren dann mit dem Bus zum Bahnhof. Von dort nehmen Sie ein Taxi bis zu Ihrem Hotel.

放送 (5)

Eva, ich habe meinen Laptop zu Hause vergessen. Ich glaube, er ist im Wohnzimmer auf dem Sofa. Kannst du ihn mir um 13 Uhr zum Seminar mitbringen? Danke! Bis später!

放送 (6)

Und nun das Wetter. In Norddeutschland ist es wolkig bei 26 Grad. Im Süden Deutschlands scheint morgen den ganzen Tag die Sonne bei 28 Grad.

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2015) S.158 ff.)

ここでは、以下の点が問われている。

- (4) 放送されたドイツ語の質問から、ホテルまでの移動手段が問われていることが理解できること。
放送されたドイツ語の Von dort nehmen Sie ein Taxi bis zu Ihrem Hotel. を聞き取れること。
- (5) 放送されたドイツ語の質問から、ラップトップが置かれた場所が問われていることが理解できること。

- 放送されたドイツ語の前置詞 auf (dem Sofa) を聞き取れること。
- (6) 放送されたドイツ語の質問から, 気象状況が問われていることが理解できること。
放送されたドイツ語から, Norddeutschland, wolkig, 26 Grad と Süden, scheint ... die Sonne, 28 Grad の組み合わせを正しく聞き取れること。

2008年から2014年の第2部では, 主に, 数字および数字を用いた時刻・価格, 交通手段, 国名・地名, 食料品(野菜, 果物, 飲料), 飲食店・宿泊施設(ホテルの客室), 医療機関・医師, 親族名称, 気象状況, 方位・位置関係(前置詞, 「左右」), 否定(nicht, keinなど), その他, 基本的な動詞・名詞・形容詞などの表現・語彙の聞き取りが問われている。

2.2.2.3. 第3部

第3部は, 放送された会話を聞き, その内容に関する質問に単語や数字を書いて答える問題であり, 2014年秋期試験は以下のとおりである。

第3部 Dritter Teil

1. 第3部は, 問題(7)から(10)まであります。
2. まずドイツ語の会話を放送します。それに続き, この会話の内容に関する質問(7)~(10)を読みます。
3. そのあと, 約30秒の間をおいてから, 同じ会話をもう一度放送します。
4. 次に質問(7)~(10)をもう一度読みます。
5. 質問に対する答えとして, (7), (9), (10)には適切な一語を, (8)には算用数字を解答用紙の所定の欄に記入してください。
6. メモは自由にとつてかまいません。
7. 質問(10)の放送のあと, およそ1分後に試験終了のアナウンスがあります。試験監督者が解答用紙を集め終わるまで席を離れないでください。

(7) Er ist in letzter Zeit so _____ .

(8) Er arbeitet bis Uhr.

(9) Er trinkt zu wenig _____ .

(10) Er soll das _____ aufmachen.

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2015) S.145)

放送

A: Ich bin in letzter Zeit so müde.

B: Arbeitest du zu viel?

A: Na ja, es geht. Ich arbeite immer bis 20 Uhr. Ich arbeite also jeden Tag zwei Stunden länger.

B: Und warum?

A: Ich arbeite an einem wichtigen Projekt.

B: Da kann man nichts machen. Trink doch einfach mehr Kaffee.
 A: Ich trinke schon zu viel Kaffee. Da bekomme ich noch Magenprobleme.
 B: Ich habe gehört, man ist müde, wenn man zu wenig Wasser trinkt.
 A: Stimmt. Ich trinke zu wenig Wasser.
 B: Und man soll das Fenster aufmachen. Frische Luft tut gut. Am besten ist natürlich, wenn du spazieren gehst.
 A: Das ist eine gute Idee.

放送 (7)

Wie geht es dem Mann in letzter Zeit?

放送 (8)

Bis wann arbeitet der Mann jeden Tag?

放送 (9)

Was trinkt der Mann zu wenig?

放送 (10)

Was soll der Mann machen?

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2015) S.160 ff.)

ここでは、以下の点が問われている。

- (7) 放送されたドイツ語の質問文Wie geht es dem Mann in letzter Zeit? を聞き取れること。
放送された会話文で、質問に対応する部分がIch bin in letzter Zeit so müde. であることがわかり、müdeを聞き取れ、かつ正しいスペルで書けること。
- (8) 放送されたドイツ語の質問文Bis wann arbeitet der Mann jeden Tag? を聞き取れること。
放送された会話文で、質問に対応する部分がIch arbeite immer bis 20 Uhr. であることがわかり、20(zwanzig)を聞き取れること。
- (9) 放送されたドイツ語の質問文Was trinkt der Mann zu wenig? を聞き取れること。
放送された会話文で、質問に対応する部分がIch trinke zu wenig Wasser. であることがわかり、Wasserを聞き取れ、かつ正しいスペルで書けること。
- (10) 放送されたドイツ語の質問文Was soll der Mann machen? を聞き取れること。
放送された会話文で、質問に対応する部分がUnd man soll das Fenster aufmachen. であることがわかり、Fensterを聞き取れ、かつ正しいスペルで書けること。

2008年から2014年の第3部では、主に、数字(2桁が中心であるが、まれに3桁)および数字を用いた時刻(halb ~を含む)・日時・価格、季節・月名・曜日、その他、基本的な名詞(Jahr, Woche)、動詞(arbeiten)、形容詞(blau)などの表現・語彙の聞き取りが問われている。また、名詞に関しては、頭文字を大書することや、単数・複数(Kinder, Wochen など)も正しく

聞き取り、書き取らねばならない。さらに、音声を聞いて、その音声に対応する単語のスペルを正確に書くことも求められている。この点では、特に ei, eu, ig, tt(mit と Mittwoch など), tz, ü および l と r などの綴りや英語と発音の異なる子音 (sch, j, 有声音の s, 語末・音節末の -b, -d, -g) を含む語のスペルに注意して学習することが求められている。

3. 今後の「ドイツ語実践 A」と外国語の自律学習能力養成にむけて

「ドイツ語実践 A」および同種の授業において、受講生が今後、2 で分析・考察した独検 3 級で求められているドイツ語運用能力を習得する、またはそれを向上させるために、以下の 2 つの取組を提案する。

まず、教授者が受講生のドイツ語運用能力を正確に把握することが必要である。これは当然のことであるが、実際にはなかなか難しいものである。そこで「ドイツ語実践 A」では、第 1 回の授業で 2014 年秋期筆記試験を、第 2 回の授業で同聞き取り試験を受講生に課し、その結果をまとめた成績表を作成した。以下の表 1・2 は、この成績表に、2014 年秋期試験の実際の受験者の正解率(表の「全国正解率」)(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2015) S.147 ff.)を追加したものである。

表 1 (筆記試験;出席者 26 名)

問	設問	選択肢	ドイツ語実践 A		全 国 正解率
			選択 者数	選択率	
1	(1)	1	3	11.5%	
		2	0		
		正解 3	23	88.5%	83.7%
		4	0		
	(2)	正解 1	26	100.0%	68.4%
		2	0		
		3	0		
		4	0		
	(3)	正解 1	14	53.8%	29.3%
		2	2	7.7%	
		3	3	11.5%	
		4	7	26.9%	
	(4)	1	1	3.8%	
		正解 2	22	84.6%	85.0%
		3	0		
		4	3	11.5%	
2	(1)	正解 1	15	57.7%	46.1%
		2	9	34.6%	
		3	2	7.7%	
		4	0		
	(2)	正解 1	22	84.6%	63.7%
		2	3	11.5%	
		3	0		
		4	1	3.8%	
	(3)	正解 1	24	92.3%	65.4%
		2	0		
		3	2	7.7%	
		4	0		
	(4)	1	1	3.8%	
		正解 2	9	34.6%	49.9%
		3	4	15.4%	
		4	12	46.2%	

問	設問	選択肢	ドイツ語実践 A		全 国 正解率
			選択 者数	選択率	
3	(1)	正解 1	15	57.7%	44.5%
		2	11	42.3%	
		3	0		
		4	0		
	(2)	1	1	3.8%	56.5%
		2	2	7.7%	
		正解 3	21	80.8%	
		4	2	7.7%	
	(3)	1	9	34.6%	27.4%
		2	0		
		正解 3	11	42.3%	
		4	6	23.1%	
	(4)	1	7	26.9%	23.6%
		2	1	3.8%	
		3	9	34.6%	
		正解 4	9	34.6%	
4	(1)	1	0		59.0%
		正解 2	20	76.9%	
		3	6	23.1%	
		4	0		
	(2)	1	5	19.2%	70.0%
		正解 2	21	80.8%	
		3	0		
		4	0		
	(3)	1	0		41.4%
		2	1	3.8%	
		正解 3	20	76.9%	
		4	5	19.2%	
	(4)	正解 1	18	69.2%	60.3%
		2	3	11.5%	
		3	5	19.2%	
		4	0		

問	設問	選択肢	ドイツ語実践 A		全 国 正解率	
			選択 者数	選択率		
5	(1)	1	3	11.5%	51.9%	
		2	0			
		正解 3	21	80.8%		
		4	2	7.7%		
	(2)	1	6	23.1%	26.3%	
		2	0			
		3	4	15.4%		
		正解 4	16	61.5%		
	(3)	1	3	11.5%	28.8%	
		正解 2	8	30.8%		
		3	13	50.0%		
		4	2	7.7%		
	(4)	1	5	19.2%	50.8%	
		2	2	7.7%		
		正解 3	15	57.7%		
		4	4	15.4%		
6	(1)	1	1	3.8%	36.8%	
		2	7	26.9%		
		3	11	42.3%		
		正解 4	7	26.9%		
	(2)	1	3	11.5%	68.2%	
		正解 2	22	84.6%		
		3	1	3.8%		
		4	0			
	(3)	1	0		86.9%	
		正解 2	24	92.3%		
		3	1	3.8%		
		正解 4	22	84.6%		
			5	5	19.2%	
	7	a	正解 2	25	96.2%	82.7%
		b	正解 8	21	80.8%	69.4%
		c	正解 4	10	38.5%	38.4%
d		正解 6	11	42.3%	49.7%	
e		正解 3	11	42.3%	41.1%	
8		1	5	19.2%		
		2	1	3.8%		
		正解 3	22	84.6%	74.7%	
		正解 4	23	88.5%	87.3%	
		正解 5	24	92.3%	80.1%	
		6	6	23.1%		
		正解 7	23	88.5%	85.3%	
		8	0			

表 2 (聞き取り試験;出席者 25 名)

部	設問	選択肢	ドイツ語実践 A		全 国 正解率
			選 択 者 数	選 択 率	
1	(1)	正解 1	22	88.0%	71.1%
		2	1	4.0%	
		3	1	4.0%	
		4	1	4.0%	
	(2)	1	1	4.0%	94.2%
		2	0		
		正解 3	24	96.0%	
		4	0		
	(3)	1	0		94.6%
		2	0		
		3	0		
		正解 4	25	100.0%	
2	(4)	1	0		97.9%
		2	0		
		正解 3	25	100.0%	
	(5)	1	0		84.8%
		2	1	4.0%	
		正解 3	23	92.0%	
	(6)	1	1	4.0%	93.3%
		正解 2	24	96.0%	
		3	0		
	3	(7)	<i>müde</i>	25	100.0%
(8)		<i>20</i>	19	76.0%	79.6%
(9)		<i>Wasser</i>	22	88.0%	69.4%
(10)		<i>Fenster</i>	23	92.0%	64.4%

この全体成績表によって、各問題の難度および受講生の運用能力のレベルがより正確に把握できる。例えば、2014 年秋期試験に関しては、筆記問題の問 3(動詞や助動詞に関する問題)では、設問 1 で、状態受動が問われているにもかかわらず、4 割程度の受講生が動作受動と誤って判断していること、設問 2 で、als ob が接続法第 II 式と共に用いられる点は 8 割程度の受講生が理解していること、などである。

この全体成績表は受講生にも配付したが、今後は、各問題の難度もわかるように「全国正解率」も記載したものを配付するように改善する。

次に、学習者が自身のドイツ語運用能力を把握することが必要である。特に、自律した外国語学習において、文法・語彙・読解・聴解などのカテゴリーで、どの運用能力がどの程度足りていないのかを学習者が自覚することは、効果的な学習に不可欠である。そこで、第 1・2 回の授業で課した 2014 年秋期試験の結果を、受講生ごとにまとめた表 3(次頁)を作成・配付した。

この個人成績表から受講生は、2014 年秋期の筆記試験に関して、問 2 の前置詞に関する問題、問 4 の文法、特に関係代名詞に関する問題、問 6 の語彙および同義表現に関する問題が、それぞれ半分しか正解できておらず、この受講生は、これらについて今後重点的に学習する必要があることを自身で判断することができる。

なお、個人成績表は、受講生自身による、より正確な運用能力把握のために、小テストなどの結果についても配付している。

表 3

問	設問	正解	正解率	問	設問	正解	正解率	部	設問	正解	正解率
1	(1)	○	100.0%	5	(1)	○	75.0%	1	(1)	○	100.0%
	(2)	○			(2)				(2)	○	
	(3)	○			(3)	○			(3)	○	
	(4)	○			(4)	○		2	(4)	○	100.0%
2	(1)	○	50.0%	6	(1)		50.0%		(5)	○	
	(2)				(2)				(6)	○	
	(3)	○			(3)	○		3	(7)	○	75.0%
	(4)				7	a			○	60.0%	
3	(1)	○	75.0%	b		○	(9)		○		
	(2)	○		c				8	○		100.0%
	(3)	○		d							
	(4)			e	○						
4	(1)	○	50.0%	8		○	100.0%			(10)	
	(2)					○					
	(3)	○				○					
	(4)					○					

個人成績表については、今後の改善点として、配付の回数と時期が挙げられる。中間試験および期末試験後に配付するのは当然であるが、例えば、試験前にも配付することによって、各自がより効果的な試験勉強を行うことができると思われる。また、可能であれば、今後この個人成績表は、受講生自身が作成するように指導する。それによって、受講生の自律学習能力がより高まることが期待できよう。

[参考文献]

公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2009): 独検過去問題集 2009 年版〈5 級・4 級・3 級〉. 郁文堂.

———— (2010): 独検過去問題集 2010 年版〈5 級・4 級・3 級〉. 郁文堂.

———— (2011): 独検過去問題集 2011 年版〈5 級・4 級・3 級〉. 郁文堂.

———— (2012): 独検過去問題集 2012 年版〈5 級・4 級・3 級〉. 郁文堂.

———— (2013): 独検過去問題集 2013 年版〈5 級・4 級・3 級〉. 郁文堂.

———— (2014): 独検過去問題集 2014 年版〈5 級・4 級・3 級〉. 郁文堂.

———— (2015): 独検過去問題集 2015 年版〈5 級・4 級・3 級〉. 郁文堂.

人見明宏 (2011): ドイツ語 I (総合) 文法. (自主作成教材; B5, 28 ページ)

室井禎之 / 人見明宏 (2005): 独検 3 級突破. 三修社.

———— (2005): 独検 4 級突破. 三修社.

[参考ホームページ]

独検 online: <http://www.dokken.or.jp/> (ドイツ語技能検定試験の HP; 2015 年 11 月 6 日閲覧)